



# 連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局  
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>  
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 300 号

(創刊 1988.12.14)

2014.09.07.

## 祝 創刊 300 号



連協道路ニュース  
300 号、26 年間の  
闘争と運動、本当  
にご苦労様です。

1988 年、連協が  
結成され、翌 89 年  
連協が中心になっ  
て逗子で全国交流  
集会を開催しまし  
た。

この原稿を書きながら当時のことを思い出していました。当時、私は道路公害反対運動全国連絡会の事務局長、東京住民運動連絡会事務局長として連協結成の集会に参加し、皆さんの「居住権と環境を護るんだ」という熱意に感動しました。

以後、皆さんの熱意と団結そして創意と理論に裏づけられた取り組みが、26 年間もの運動を牽引してきました。全国各地の道路の住民運動は確かに数十年も継続しているものが多々ありますが、20 数年間も建設を阻止してきた運動はほかにありません。連協の創意ある取り組みは全国の同志の大きな教訓、指針になっています。

この運動を継続させているのは、「この道路が必要のない、環境破壊の理不尽な事業だ。」という皆さんの正義感の発露だと思います。

しかし国交省は「説明責任と合意形成」という公共事業の鉄則をまもらず、不当にも 80% の慣例を破ってまで収用をかけるという暴挙を仕掛けてきています。関係住民らの意向を無視して、造ることのみを目的化した理不尽な違法な行政です。

事業者は公共事業に対する世論の批判が高まるなかで、連協のネバリ強いそして論理的な運動にあせりを感じているのだと思います。

皆さん、ここからが正念場です。今までの運動を結実させるためにもがんばってください。



幾たびかの質問集会 標氏も参加(左端)  
事業者側は、逃げの一手に終始した。

私もいま国分寺と小平の道路裁判の原告として 10 年以上も国や東京都の道路政策や行政運営を変革させようと頑張っています。

連協のみなさん、闘う仲間がたくさんいます。連帯して闘いましょう。(標 博重)

### しめぎ ひろしげ 標 博重 さんのプロフィール

我が国道路問題の草分け的存在。1987 年当時、すみよい環境をつくる東京住民運動連絡会事務局長と道路公害反対運動全国連絡会事務局長。1988 年の連協設立に際し、貴重な助言を頂きました。

現在も、首都圏道路問題連絡会事務局長、環境アセスメント連絡会代表幹事や地元国分寺 328 号線行政訴訟原告団代表幹事などで大活躍中。

# 「連協道路ニュース 300号」 に敬意

高尾山の自然をまもる市民の会  
事務局長 橋本良仁

連協ニュースの創刊は1988年12月と伺った。毎月欠かさずニュースを発行し続けてこられた貴団体に心から敬意を表したい。

高尾山の自然をまもる市民の会には、毎日のように全国の様々な団体からニュースや会誌が送られてくるが、団体の活動が停滞したり、担当者の不都合でニュースが届かなくなることがしばしばある。毎月確実にニュースを製作して定期発行を守り続けるという努力は並大抵のことではない。

ニュースは連協役員とすべての会員を結ぶ機関紙の役割を果たすとともに、ニュースの紙面は会員同士の意見交換の場でもある。比留間会長をはじめ、これまでの連協役員は、いつでもどのような会合にも必ずニュースを持参して参加者に一人ずつ手渡し、対象道路である横浜環状道路南線の現状や連協の活動状況を説明してくれる。したがって、道路全国連や公共事業改革市民会議のメンバーは、誰もが横浜圏央道の現状を知っている。

私は立場上、全国のさまざまな住民団体や市民団体から要請され、お話をする機会がある。そうしたときに、その団体役員と各構成員との間の意思疎通がうまくいっているか、じっと観察することになっている。役員会の会合は定期的開催されているか、ニュースや会誌が定期的発行されているか、役員は男性だけでなく女性もきちんと配置され能力に相応しい活動を担っているか、などなどである。



2007年の統一パレードで挨拶する橋本氏(右端)

連協の皆さんを見る限り、うまく機能しているように見受けられる。貴団体が活動を始めてからすでに25年を過ぎた。一番厳しい、まさに正念場の闘いを迎えたといえよう。

連協が道路全国連の先頭で頑張ることは、全国の住民運動団体に勇気を与えることになる。貴団体の引き続きの奮闘を期待している。

## 300号発刊おめでとう

連協会長 比留間 哲生

連協道路ニュース第1号は昭和63年12月14日に発刊され、その後毎月一回も休まず発行されて、この度300号に到達しました。

これは私たちの先輩達が当初から、「横環南計画の白紙撤回を含む抜本的見直し」を求めて運動を続けてきた貴重な足跡です。毎月の行動記録と計画をこの紙面に発表し、とかくこのような運動では役員レベルに集中しがちな情報を連協ではこの紙面を通して4,000世帯の皆様と共有し一緒に行動してきた証となるものであります。

創刊号では横環南の勉強会からスタートしました。現在も同じテーマで追及していますが、横環南の必要性、道路公害の深刻さなど現在に至るまで事業者には未だに住民の理解を得ようとする努力が全くみられず、そのため当初の平成9年供用予定の計画を平成33年まで遅らせました。

しかしご存知のとおり、この間に日本社会の経済状況は既設社会資本の修理と保守に方向転換する時代に入っています。このような中、今年は何と！「横環南を1年前倒しして平成32年のオリンピック開催年に完成」と強引に不当、不法な強制収用を掛けてきました。安倍政権はオリンピックを旗印に世論を味方に付け今しかないと判断したもので、供用予定を早めたのは未だかつてなかった異常なことです。最近の事業者は全く聞く耳を持たず勝手極まりない状況です。

最後に勝つのは主権者である国民であることを見せつけましょう。今後も連協道路ニュースで厳しく追及していく所存ですし、皆様と一緒に理不尽を質してまいりましょう。

## 26年に及ぶ反対運動を考える

初代連協会長 松本昌司

300号記念の寄稿に当って、先ず全国の同志とともに、政官学各界に亘って精力的に活動されている比留間現会長を始め連協幹部の皆さまに対し、深甚の感謝の意を表します。

横環南線は全く不要な無駄な計画であることは今や周知の事実です。即ち主要幹線を結ぶ圏央道は既に連結完了、横浜環状線は最初から計画倒れ、港の振興策としてのハブ港実現は既に仁川、高雄、香港で定着、今さら背後道路を増やしても無理である。



恒例のパレード 田谷を行進

一方巨額な赤字を抱えプライマリーバランスすらも実現できない国家財政の今日、こんな計画に4,300億も使うとは誰が考えても不合理です。まして大気汚染、地盤沈下など住民に甚大な被害を齎す計画でもあるのです。

こんな無謀且つ不合理な計画が、私たちの26年に及ぶ反対運動にも拘わらず何故未だに計画が生き延びているのでしょうか。

小生が考えでは、確固たる官僚主義が一番の原因ではないか。彼等は優秀な集団ではあり高度成長時代にはそれが最も効を果たしたが、今日前例のない少子高齢化、低成長の時代には前例主義にこだわる彼等は一旦決めたことはともかくやりとおすとしか考えない。

そこで政治家が革新的、長期的、総合的な観点の下に、政治主導を発揮するべきにも拘わらず、政権交代で期待された民主党などはもろくも官僚に取り込まれ失敗してしまった。

私たちはこれまで以上にあらゆる手段をもって横環南線撤回を訴えるとともに、日本のこの政治構造を改革していかなければ、子孫に対して顔がたたないと思う。

## 道路建設への逆風

朝日平和台 小沼通二

連協発足の1988年から26年、連協道路ニュースもこの年の12月14日の創刊からこの300号に達した。

最初から必要性がはっきりしていなかった横浜環状道路南線（圏央道）と関連道路の建設目的は、次々に変更され、今では完全に霧散してしまった。それなのに、当面の経済活性化のため公共工事は何でもやるという政府の方針の下で、今を逃したらできなくなると狂奔しているのが、一言にまとめた現状である。

しかし、これには次々に逆風が吹いている。2014年8月1日には「日本自動車販売協会連合会」が、6年後の2020年に国内で販売される新車数は、2013年度の販売台数から19.2%減少すると予測を発表した（NHK、8月3日）。

8月10日の新聞（朝日）には、2030年の予測は、販売店の経営悪化への不安と混乱を恐れて公表を見送ったと書かれている。減少の理由は、少子高齢化が進んで国内市場が縮小し、都市の小型化が進み、車を保有する都市の住民が減ることによるのだという。

また国土交通省の審議会が、首都圏や近畿圏では高速道路の整備が終盤に近付いてきたため新たに作り続けるのではなく、「賢く使う」検討をスタートしたと報じられている。（2014年7月30日朝日新聞社説。明示されていないが関係する審議会は、社会資本整備審議会か、交通政策審議会であろう。）首都高速道路や全国の橋の老朽化への対策、東日本大震災の復興は一刻も遅らせるわけにいかない。

累積する日本の財政赤字は、解消を目指すなら、はるか以前に放漫路線を変更しなければならなかったのに、国債発行を増やして将来の世代につけを回し、無責任政治を継続している。このまま進めば、保守・管理ができず、通行量が少ない老朽化赤字路線ばかりになることは明らかだ。

状況は、我々が言ってきたとおりに動いてきている。地元のわれわれがまとまっている限り、土地収用法を発動して強制執行することはできない。

# 要らないものは要らない

朝日平和台 小林洋子

連協ニュースが 300 号になると聞き、運動を初めた頃を思い出しました。NO2 の測定、騒音調査、地盤沈下の勉強会、逆転層の実験等をして「環境を破壊してはいけない、現況のまま次世代に遺す義務がある。」と思いました。



接地逆転層の実証実験

グリーンテラスからの眺め。

煙は上空に拡散せずに、横にたなびく

道路局から「小林さんの家は 11m も離れているので何の心配もないのに何故反対するのか」と言われたことがあります。どうして心配ないと言えますか。住宅密集地の真下に、地下鉄トンネルの 20 倍の断面積という世界でも最大級のトンネルを掘るのです。地下水脈や地層構造が明らかでない以上、工事現場から離れたところでも地盤沈下は起こり得ます。

「施工時に住民の意見を尊重して、住民の皆様の悪いようにはしません。」というこの言葉を何度も聞きました。しかし施工前に私達の声になんら耳を貸しません。どんな説明会でも、住民の質問に対して、安全であるかどうか分からない事を誤魔化し、曖昧な態度は一方的でとても納得のいくものではありません。「道路ありき」で考えているからです。

必要でない道路に莫大なお金をかけ、住民を苦しめてまで何故、道路を造るのか分かりません。横暴な国家権力をふりかざし、脅かしているだけです。

不要不急、要らないものは要らないのです。どんなことがあっても、決して道路を造らせ

てはいけません。この美しい環境を守り抜いていこうという気持ちを更に強くしました。



庄戸でのボーリング反対抗議行動 2008 年 02 月

## 編集後記

「継続は力なり」とはよく言われる言葉です。連協運動の 26 年は、まさに継続です。そして連協ニュースも 26 年にして、今回 300 号を迎えることが出来ました。

継続するためには、関係諸団体の助言や構成員の努力は勿論の事、団体を纏め、指導してきた執行部の努力や力量によることが大である事も間違いありません。

本 300 号中の写真は、連協活動の節目となる写真ですが、時には下記の如き親睦を兼ねた視察旅行もありました。



高尾集会参加後、高尾山へ(2007.07.29.)

連協も平均年齢が上がり、昔ほどの行動力が無くなってきたことも事実ですが、「白紙撤回を含む抜本の見直し」を求め、今後も活動を続けていきたいと思います。

今や連協の目的は、住環境を守るための運動のみではなく、理不尽な道路行政自体に対する抵抗でもあります。

少しでも社会を良くすべく、運動に参画したいものです。  
(事務局)